

## 外国につながる子どもの進路に関するアンケート調査の結果 (2011年度 2012年度)

神奈川県公立高等学校入学者選抜制度には、来日3年以内の外国につながる子どもたちを対象とする「在県外国人等特別募集」という特別枠(2012年度定員109人)があります。神奈川県の特別枠は、子どもたちが進路を切りひらく大きな助けになってきましたが、諸条件に該当せず特別枠の対象者として受検ができないなど、高校への進学が難しい子どもが多数存在し、子どもを取り巻く厳しい状況も教育関係者・支援者から指摘されています。

そこで公益財団法人かながわ国際交流財団では、2009年に「外国につながりを持つ子どもの教育に関する調査プロジェクト」を、特定非営利活動法人多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)と協働で立ちあげ、県内の市町村教育委員会、学校、支援団体・NGOを対象としたアンケート調査を実施しました(1)。その結果、特別募集設置校の地理的な偏りや、特別枠の定員数が不足している状況などが数量的に明らかになりました。

当財団では、継続して外国につながる子どもの進路に関して、ニーズ等を的確に把握するため、今年度も調査を実施いたしました。

(1)2009年度かながわ国際協力基金 NGO等協働事業における調査結果については、「外国につながりをもつ子どもの教育に関する調査プロジェクト」報告書(2010年6月)にまとめられています。次のURLよりダウンロードができます。<http://www.k-i-a.or.jp/shuppan/report.html>

### 【調査の概要】

- 調査目的 2009年度より実施している調査を継続して行い、各年度の結果を比較・検証することにより、外国につながる子どもの進路に関するニーズ等を把握する。
  - 調査対象 国際教室設置の県内公立中学校  
2011年度入試における調査対象校 45校 (2010年度国際教室設置校)  
2012年度入試における調査対象校 47校 (2011年度国際教室設置校)
  - 回答者 進路担当または国際教室担当の教員
  - 調査方法 調査票の配布・回収を、郵送及びFAXにより実施  
横浜市内中学校は、各校に調査を依頼して回収  
他の市町村は市町村教育委員会に調査依頼、教育委員会により集約された回答を回収
  - 実施時期 2011年3月～5月、2012年3月～6月
  - 調査内容 2011年3月、及び2012年3月に卒業した生徒について、次の内容を把握した。
    - ・ 国際教室に在籍する卒業生徒数
    - ・ そのうち「在県枠」の条件に該当する生徒数
    - ・ 「在県枠」の条件に該当する生徒及び、(※)「在県枠」の条件に該当しない国際教室に在籍するその他の生徒の最終的な進路：「在県外国人等特別募集校」「在県枠以外の公立全日制」「在県枠以外の公立定時制」「公立通信制」「私立高校」「就職」「高校浪人」「その他・不明」
- (※)「在県枠」の条件に該当しない国際教室に在籍するその他の生徒の進路」についての質問は、2012年度のみ実施
- ・ 「在県外国人等特別募集」に関することや「外国につながりをもつ子ども」の進路保障に関しての自由記述

【1】 在県外国人等特別募集(在県枠)進路状況

[表1] 2011年度・2012年度国際教室がある県内中学校における「在県枠」該当者の進路状況(地域別)

	在県枠 該当者		進路状況															
			在県枠		公立全日		公立定時		公立通信		私立		就職		高校浪人		その他・不明	
	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2011	2012
川崎市	5	8	1	3	0	0	0	1	0	0	3	0	0	3	0	0	1	1
横浜市東部	51	23	11	7	3	5	24	4	0	0	10	6	0	0	0	0	3	1
横浜市その他地域	7	0	2	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
湘南三浦地区	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県央部	9	10	6	6	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
県西部	9	3	3	2	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	82	44	23	18	8	6	28	5	0	0	17	6	2	3	0	0	4	6

(※データ回収率 2011年度 77.8% / 2012年度 78.7%)

\*横浜市東部(鶴見区・神奈川区・西区・中区)

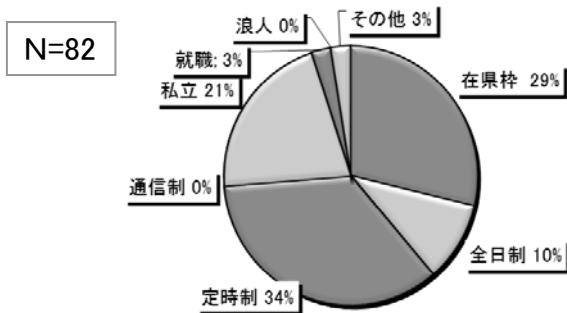
\*県央部(相模原市・厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村)

\*県西部(平塚市・小田原市・秦野市・伊勢原市・南足柄市・大磯町・二宮町・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町)

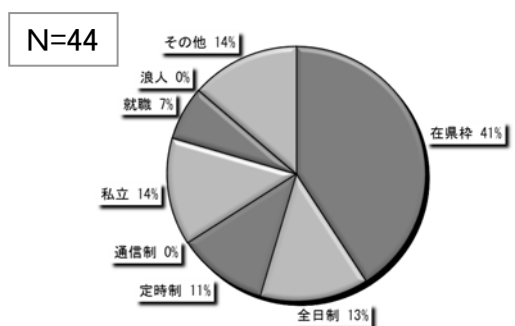
\*湘南三浦地区(横須賀市・鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市・逗子市・三浦市・葉山町・寒川町)

[表2] 国際教室のある中学に限った「在県枠」該当者の進路状況

2011年



2012年



[表3] 「在県枠」定員・「在県枠」該当者・「在県枠」希望者の地域比率

	2011年度				2012年度			
	定員	定員 比率 %	該当 者数	該当者比率 %	定員	定員 比率 %	該当 者数	該当者比率 %
川崎市	0	0.0%	5	6.1%	0	0.0%	8	18.1%
横浜市東部	25	22.9%	51	62.2%	25	22.9%	23	52.2%
横浜市その他地域	4	3.7%	7	8.5%	4	3.7%	0	0.0%
湘南三浦地区	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
県央部	70	64.2%	9	11.0%	70	64.2%	10	22.7%
県西部	10	9.2%	9	11.0%	10	9.2%	3	6.8%
合計	109		82		109		44	

[表 4] 在県外国人等特別募集 2005～2012 年度 合格率の推移 (神奈川県教育委員会発表資料より作成)

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
募集校数(校)	6	7	7	8	8	10	10	10
募集定員(人)	59	69	69	74	79	104	109	109
前年増(人)	0	+10	0	+5	+5	+25	+5	0
受検者数(人):a	64	71	93	98	119	140	120	95
合格者数(人):b	58	61	67	66	88	100	100	83
合格率:b/a	90.6%	85.9%	72.0%	67.3%	73.9%	71.4%	83.3%	87.4%

[表 5] 2011 年度・2012 年度神奈川県公立高等学校入学者選抜後期選抜合格情報

(神奈川県教育委員会発表資料より作成)

	学校名	学科・コース名・部	募集 定員	受検者数		合格者数		欠員		倍率	
				(2011)	(2012)	(2011)	(2012)	(2011)	(2012)	(2011)	(2012)
横浜市東部	県立鶴見総合高校	総合学科	15	28	24	16	15	0	0	1.75	1.60
	県立神奈川総合高校	単位制普通科 国際文化コース	10	10	10	10	10	0	0	1.00	1.00
県西	県立平塚湘風高校	単位制普通科	10	12	7	11	7	0	3	1.09	1.00
県中部	県立相模原青陵高校	単位制普通科	10	13	10	10	10	0	0	1.30	1.00
	県立橋本高校	普通科	10	10	10	10	10	0	0	1.00	1.00
	県立有馬高校	普通科一般コース	10	10	6	10	6	0	4	1.00	1.00
	県立座間総合高校	総合学科	10	13	12	10	10	0	0	1.30	1.20
	県立愛川高校	普通科	10	7	3	7	3	3	7	1.00	1.00
	県立相模向陽館高校 (定時制)	単位制普通科午前部 単位制普通科午後部	10 10	7 5	6 2	7 5	6 2	3 5	4 8	1.00 1.00	1.00 1.00
横・他	横浜市立横浜商業	国際学科	4	5	5	4	4	0	0	1.25	1.25

【2】「在県枠」以外の生徒を含めた国際教室在籍生徒の進路状況(2012 年度のみ)

	在県枠 該当者	進路状況								
		在県枠	公立 全日	公立 定時	公立 通信	私立	就職	高校 浪人	その他・ 不明	
川崎市	在県枠	8	3	0	1	0	0	3	0	1
	在県枠以外	4	3	0	1	0	0	0	0	0
横浜市東部	在県枠	23	7	5	4	0	6	0	0	1
	在県枠以外	23	9	6	1	5	0	0	0	2
横浜市その他地域	在県枠	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	在県枠以外	2	0	2	0	0	0	0	0	0
湘南三浦地区	在県枠	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	在県枠以外	3	0	2	0	0	0	0	0	1
県中部	在県枠	10	6	1	0	0	0	0	0	3
	在県枠以外	46	25	11	4	5	0	0	0	1
県西部	在県枠	3	2	0	0	0	0	0	0	1
	在県枠以外	18	6	3	0	4	1	0	0	4
計	在県枠	44	18	6	5	0	6	3	0	6
	在県枠以外	96	43	24	6	14	1	0	0	8

### 【3】その他の課題について(アンケートの自由記述より)

※統一性を保つため、趣旨を外さない範囲で、一部語句を修正してあります。

#### 「在県枠」の新設及び定員増加についての主な記述

- ・ 有資格の生徒が 11 名いますが、本校から通学可能な横浜市内 3 校は条件が厳しく（倍率が高い、受験する生徒の内申点が高い）、選択肢に入りませんでした。
- ・ 県内東部の学校の募集が少なすぎます。横浜・川崎地域の募集を増やして欲しい。市立高校でも受け入れて欲しい。現在 3 年生で進路未定者は 4 人ですが、うち 3 人が外国人です。
- ・ 横浜市立高校における在県枠の定員が不足しており、通学可能な近隣の学校へ進学を希望する生徒のニーズに合っていない。
- ・ 横浜市立高校に在県枠を増やして欲しい。中区の学校から在県枠に入ることが困難です。
- ・ 対象生徒が増加しているので、募集枠を持つ学校の定員増を希望します。
- ・ 在県外国人特別募集を実施する学校を増やして欲しい。（秦野・伊勢原学区、もしくは県西方面の高校に設置をお願いしたい。）
- ・ 特別募集の人数、学校が少ない。
- ・ 募集人員を増やして欲しい。
- ・ 横浜市内の公立高校におけるさらなる在県枠の設置をお願いしたいです。
- ・ 「在県外国人等特別募集」をする学校を増やすようお願いしたいです。湘南三浦地区にぜひお願いしたいです。

#### 「在県枠」の条件となる滞日年数条件についての主な記述

- ・ 今年も日本籍取得 3 年をほんの少し越えてしまい、在県枠での受検ができない子がいました。
- ・ 在日通算 3 年以内の生徒が特別募集の対象になっているが、母国と日本を往復して 3 年を越えてしまっている生徒は対象から漏れています。
- ・ 特別募集枠の「在留期間 3 年以内」という条件が厳しい。小学生の時に来日し滞在期間が長くても日本語の力が足りずに、希望の学校の受検を諦め定時制や通信制を選択する生徒が多くいます。そのような生徒の進路保障をするために、特別募集枠の条件について再考していただくことを望みます。
- ・ 在県外国人特別募集については、本自治体では、希望があったとしても、条件に満たない者がほとんどです。小学校時に途中で帰国し、中学校に日本に戻ってきても、通算 3 年を過ぎていることから、この制度が使えないのが実態です。一度帰国して日本に戻ると、生活言語は獲得できるものの、なかなか学習言語までは獲得できない生徒が多く、厳しい状況にあります。
- ・ 来日 4～5 年の生徒の枠も欲しいです。

#### 日本生まれ・日本国籍の生徒への配慮についての主な記述

- ・ 外国につながる子どもの現状が多様化していることを市教委・県教委にしっかり把握してもらいたいです。
- ・ 近年、生まれた時から日本国籍を有し、そのため在県枠に該当しない中学 1 年生以降の編入生徒が増加していますが、帰国子女枠のある高校は日本人で日本語が不自由でない生徒を想定しているため、受け入れ体制ができていません。
- ・ 本校では日本生まれの生徒が多く、「在県枠」に該当しないため特別配慮を受け入れられない状態です。特別配慮を受けたのは本年度 1 人。無事前期で横浜総合（Ⅱ）に合格しました。後期ではかなり難しかっただろうと思われれます。こういった生徒を救うための制度が今後より一層充実することを切望します。

#### 定時制に進路が偏る実態への対策についての主な記述

・ 本校は、定時制への進学率は日本人が 9.4%であるのに対し、外国につながる人では 18.6%になっています。経済格差が教育格差になっていることが今年は数字にはっきり現れました。このような状況からも外国につながる人へのさらなる支援が求められていると思います。

#### その他の記述

- ・ 大人になっても日本で生活していく人も大勢いるので、日本の社会を担う一員を育てるつもりで、様々な機関が対応をしていく必要があります。